

## H28年熊本地震から5か月を経て

ルーテル学院中学・高校 校長 林田 博文

「感謝！そして、完工！」、皆さまの祈りと励ましと支えのうちに、すべての復旧工事を終えることができました。次の写真は、工事に関わってくださった方々です。



ここにおられる方々、それ以前にお働き頂いた工事関係者の皆さまがいてくださったからこそできた復旧工事です。夏の酷暑の中での作業により熱中症にかかりそうになり一仕事しては給水、吐き気が襲ったり、疲労困憊で眠れない夜もあったそうです。

8月31日と翌9月1日の震度5弱の大きな余震、私は8月31日午後7時46分、その時学校に居ました。長めの揺れがおさまるのを待つ中で生徒の無事を祈りながら、思わず頭をよぎったのは「このまま大きな揺れが来たら、終わろうとしている復旧工事は最初からやり直しか？」という思いでした。幸い大きな揺れにならず、ほっと胸をなでおろしました。

周囲に目を向けますと、復旧工事が思うままにいかない現実があります。一日も早い復旧と復興を心からお祈りします。避難所から仮設住宅へ移られた方、未だ避難所生活を余儀なくされている方、今も不安な中にある方に心よりお見舞い申し上げます。

震災から5か月余り、お蔭さまでルーテル学院の復旧工事は完了しました。

9月12日（月）、震災直後に学院関係者の理解を得て掲げた教育環境の整備計画のゴール「すべての教育環境を震災前と変わらぬ環境に整えること」に到達しました。祈りと願いと希望が天に届きました。改めまして工事関係の皆さまと、祈り励ましお支え頂いた皆さまにお礼と感謝を申し上げます。

しかし、このゴールは生徒たちが将来の夢を実現するための新たなスタート地点でもあります。これまでの苦難と試練を乗り越えて、未来の夢へとつなぐ大きな扉が開かれ希望の光が届けられた瞬間です。ここからが負けないための新たな未来へのスタート、生徒たちと共に夢実現のために努力し教育の業に励みます。

これからも、祈りと共にお支えと励まし、そしてつながりをお願い申し上げます。

まずは、本館4階部分の施主検査時（①～④）の写真です。

① 3階、礼拝堂に通じるエレベーターホール



② 4階、学院史料展示スペース



③ 4階、第2視聴覚室・ピアノ練習室前の廊下



④ 4階、大会議室・小会議室前の廊下



以上が施主検査時の写真です。細かな個所まで検査と確認をさせて頂きましたが、実際使用する段階での不具合などはその都度に修正をかけるように施工業九州建設さんとの間で合意しております。

ここからは、完成した様子（⑤～の写真です）。

⑤ 4階、学院史料展示スペース



⑥ 4階、第2視聴覚室・ピアノ練習室前の廊下



史料展示スペースはまだ展示は再開していません。被災した展示品をきれいにし整理して展示を再開します。4階の第2視聴覚室・ピアノ練習室前の廊下は、市松模様になっています。次にある⑦と⑧の写真にありますようにモダンで少しお洒落なオープンスペースがあり、吹き抜けの天窓からは光が入り明るい雰囲気と創造空間が広がっています。

⑦ 4階、オープンスペースとピアノ練習室（奥）



⑧ 4階、吹き抜け部分と天窓



⑨ 4階、大会議室・小会議室前の廊下



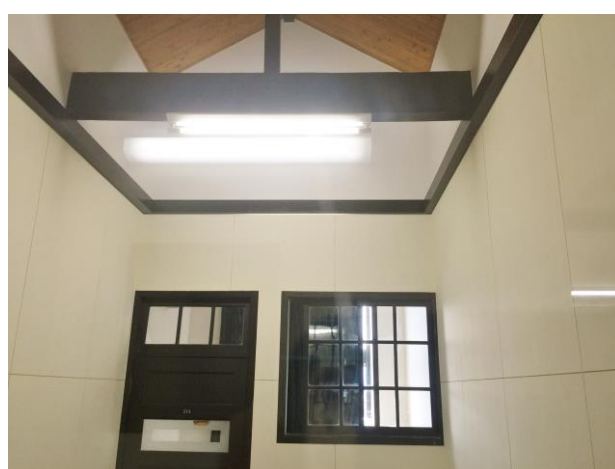
⑩ 4階、大会議室



⑪ 4階、小会議室



⑫ 4階、本館西側階段側の小部屋と天井



第2視聴覚室を音楽の授業で使っていた中学生には大変不便な思いをさせました。芸術音楽専攻の生徒たちには、ピアノ練習室を長い間使用できず練習不足になったのではないかと不安です。また、第2視聴覚室を活動場所としていた軽音楽部、小部屋を部室とする写真部には不自由な思いをさせました。最後になりましたが、中高教職員の皆さまには、5か月間にわたり会議室の使用ができず、ご迷惑をお掛けしました。

復旧工事にかかわった関係者としては、以前よりも少しでも安全に安心して使うことのできる環境となるように知恵を出し合って教育環境の整備に努めたつもりです。皆さんが待った甲斐のある空間になることを祈ります。

10月3日(月)創立記念式典後の13時頃、ルーテル学院中高礼拝堂で復旧工事の完了見学会を開催します。ぜひおいでください。

ところで、私は本館4階部分の復旧工事の期間中に疑問を持ったことがあります。その疑問は、「なぜ、創立当時は本館の中央部分の一番高いところに音楽室(現第2視聴覚室)とピアノ練習室を設計したのだろうか?しかも、院長室(現牧師室)の上にそのような空間があるの?」でした。その答えを出すために、想像力に乏しい私が想像の翼を精一杯広げてみました。ここからは、私なりのかなりの妄想ですが、それだけではいけませんので、青山静子さん(九州女学院高校18回卒)の「マーサー・B・エカードの冒険」(ドメス出版)を参考に文章を引用させていただきます。

創業者エカード初代院長は、『ルーテル夫人宣教師(Lutheran Woman's Work)』誌1921年3月号に女子学校設立の請願を「女子学校がないために私どもがかかっている問題についてはすでに何度も言ってきたとおりです。私たちの中から女性をキリスト教的奉仕の訓練に送り出すことは、自前の女子学校なしにはほとんど不可能です。」と述べておられます。また、開校準備のクリスチャン教師採用の苦労について「しかしながら、適任者の見つからない二つの教科があります。それは、音楽と体育です。この二つの教科は学校運営上もっとも大切なものです。(中略) 私たちが求めているのは優れた音楽の教育を受けた人、学校での音楽授業の知識のある人、音

樂を通してキリスト教の教えを高め、心を豊かにしてくれる人です。きっと、その人は女子学校の生徒たちの教育に献身してくれることでしょう。生徒たちは体育に大きな期待を寄せているでしょう。でも、体育の教師は、生徒たちが聖霊を宿している身体の持ち主であり、神の宿る身体として、生徒たちの体を美しくまた麗しく保つことを自覚させてくれる教師でなければなりません。(後略)」と創立当時の音楽と体育に対する思い入れと熱い情熱を感じとることができます。

間違いなくエカード初代院長は、九州女学院のすばらしい教育を受け卒業し、心豊かで社会に貢献・奉仕できる人財の養成と共に、神様と歩むクリスチャン、教会で奉仕する女性が誕生することを祈っておられた。その中に、教会で牧師や宣教師に奉仕するための英語と音楽（奏楽）に秀でた女性の養成も願われていた。だから、九州女学院は人間性を豊かにする教育の中で英語と音楽に特に力を注がれていたのではないかと思います。

音楽教育（奏楽）は、神様を賛美するための礼拝において奏楽と聖歌隊のためになくてはならない存在。本館の中央部分でいちばん高いところ、礼拝堂にいちばん近いところに置かれたのではないかと。しかも、イエスの誕生と福音を小高い丘の上にあるところから賛美する歌と奏楽を伝え知らせたのではないかと思います。

創業者エカード初代院長は、音楽室の下で九州女学院の未来を祈り、賛美と奏楽の中で日々の学院生活を送られていた。院長室のすぐ隣には礼拝堂、神様への信仰と賛美の中に身を置かれ、未来の九州女学院の理想的な姿を思い描きながら献身的な毎日を過ごされていたのではないかと考えます。

創業者エカード初代院長が1926年5月4日献堂式で「キリスト教教育により、神の国のために喜んで奉仕を行う人間を育成すること」を述べられて91年目、今年の10月3日に“創立90周年記念式典”を迎えます。

最後に、創業者エカード初代院長と学院聖句および校訓（スクールモットー）のつながりについての私なりの想像と創立90周年記念式典への思いを述べさせていただきます。

エカード初代院長は、九州女学院に神様から与えられた聖書の言葉「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである（ヨハネによる福音書10-10）」を学院聖句として選ばれました。

また、校訓（スクールモットー）を「感恩奉仕」とされました。両親の愛と信仰ある愛情深い幼少時代の教えが深く関わりつながっているのではないかと想像しています。二つのエピソードを紹介します

○敬虔な母アイダから「祈ること、差別しないこと、『使命』の大切さ」を学ばれた。

ある冬の寒い朝、隣の家庭に真っ赤なバラが咲いていた。マーサーが母親に「バラは寒いでしょうね」と語りかけると、アイダは「いいえ。バラは寒くありません。使命で咲いているのですから」と答えた。この母親の言葉はマーサー心の奥深くに刻み込まれた。

○父アベルは、娘たちに“Be a good girl.”と繰り返し諭し、そのなかの good という言葉を次のように説明した。「Good の g は神 (God) との関係において、最初の o は他の人々 (others) との関係において、2 番目の o はもう一つの他の人々、つまり恵まれない不幸な人々や寂しい人々 (others) に対して、d は神 (God) との関係を正しく保ち、周り人々に義務 (duty) を果たすことである」と。

(『「マーサー・B・エカードの冒険」青山静子著 (九州女学院高校18回卒) ドメス出版」より)

「感謝」、創立90周年記念式典を目前に控えての心の中にある思いです。歴史と伝統が九州女学院からルーテル学院へとつながれて、この時を迎えようとしております。これまでのすべてのことに感謝させて頂く機会にしなければならぬと考えています。

H28年熊本地震はそういう意味では偶然としてはあまりにも大きな試練です。今こそ、働きと関わりを持つ私たちがひとつとなり、支え合い知恵を出し合い力合わせて乗り越えなければならない時です。未来に希望を持って生きていく子どもたちの成長を願う場で、私たちこそが“他者に喜ばれるために希望を持って生きること”の必要性を強く感じます。

創立90周年記念式典は皆さまへの感謝、そして新たな未来に羽ばたき100周年に向けて祈りの機会になることを願います。来たる10月3日(月)を恵みと喜びのうちに、ここまでお支え頂いたことに感謝して皆さまをお迎えいたします。

※H28年熊本地震に関する報告は、今回をもって終了させていただきます。これまで、ご笑読頂き感謝します。